

承認された。

- (6) 将来方向 WG の活動について：八田委員より経過報告があった（別紙）。

■学会誌について：以下の方向性で答申を出していく旨の議論があり、進めていくことで承認を得た。HP に WG の答申を掲載し、総会で審議を諮る。

- ・和文誌、英文誌とも、実質的に機能する編集作業（雑誌の電子アーカイブ化への対応も含めて）のため、委員長中心型から編集委員中心型（責任編集型）へ移行する。
- ・英文誌については ISI 掲載雑誌としての登録と、Impact factor を意識した国際的な研究論文誌を目指すため、国内から選出された編集委員で構成されるワーキンググループで登録のための作業内容と作業工程を策定して作業を開始する。4冊/年、期日を守る必要要件であり、2年以上の継続的な活動が必要である。
- ・これに伴い和文誌は年2冊発行とする。和文投稿の希望者への配慮などサービス低下にならないようにする。

■討論会について：以下の方向性で答申を出していく旨の議論があり、進めていくことで承認を得た。WG の答申を HP に掲載し、総会で審議を諮る。

- ・平成22年秋に開催する討論会より、LOC と密に連携するプログラム委員会を設置し、魅力ある討論会の企画運営に努める。
 - ・平成22年秋に開催する討論会より、既存のシンポジウム・企画型セッションだけでなく、通常の講演にも積極的に関連分野の優秀な研究者・技術者を招待するなどの策を講じ、討論会をより活発なものにする。
 - ・Asian Clay のようなアジア地区中心の国際シナリオカンファレンスの定期開催を検討する。
 - ・Asian Clay の開催には、近隣のアジア諸国との連携が必須であることから、平成22年度の討論会前後いずれかで関係者を日本に招待してワークショップを開催する。そのための予算措置（学術交流基金などから支出）を講ずることとする。
 - ・アジアに粘土学会的な組織がないのが現状であり、個々に研究者にコンタクトしていく必要がある。アジアはマテリアル系が強いので粘土をマテリアルに使っている研究者に接触を図ったらよいのではという意見があった。
- (7) JST 電子アーカイブ化：JST と調整を進めている。詳細が決定したら改めて報告する予定である。今後は J-stage を用いた論文投稿・査読システムへの移行を検討していきたい。
- (8) その他：宮脇委員より「日本粘土学会標準粘土」についての執筆依頼があったことが報告された（『機能性粘土素材の最新動向（仮）』（小川会員監修）。事前にデータ等を粘土科学に公表することで承認された。

3. 協議事項

- (1) 平成21年度日本粘土学会賞等の選考：小暮委員より選考結果の報告があり、承認された。尚、受賞者には粘土科学に研究内容の紹介記事を書いてもらうよう編集委員会から依頼してもらうこととした。

学会賞：成田栄一 会員

功績賞（2名）：後藤義昭 会員 及び 鈴木啓三 会員

奨励賞：高木慎介 会員

技術賞（2名）：福垣内暁 会員 及び 秦英夫 会員

論文賞（2編）：

- 1) Development and evaluation of novel radical-trapping sheets composed mainly of clay”, Kazunori Kawasaki, Kazuhisa Sakakibara, Fujio Mizukami and Takeo Ebina, Clay Science, 13(6), 217-224 (2008).
 - 2) 粒子間相互作用が希薄な粘土コロイド分散系の粘度に及ぼす影響, 中石克也, 大井節男, 栗原陽雄, 粘土科学, 第47巻, 第1号, 2008年, p19-24.
- (2) 平成21年度日本粘土学会学術振興基金賞の選考：渡村委員より選考結果（2名）の報告があった。
- 千野大輔（北海道大学大学院工学研究科環境循環システム専攻修士2年）
- 鈴木康孝（山口大学大学院医学系研究科博士後期課程1年）
- 会議名称：14th International Clay Conference (Italy), 2009年6月14-20日
- (3) その他：特になし

4. その他

- (1) 2010-Trilateral Meeting on Clays：福嶋委員より1st circular の案内があった。HP に掲載する。学術振興基金からのサポート（学生参加者）の募集を予定。応募状況に応じて人数を決める。
- (2) 第2回若手研究者研究発表会の開催と申し込みの案内が岡田（友）委員よりあった。
- (3) 日本学術会議協力学術研究団体への移行申請の手続きを済ませた旨が山田常務委員長より報告があった。
- (4) 法人化について（久保監査役からの指摘）：岡田会長から経緯の説明があった。会則・規則の見直し、整備が必要であり、現状すぐに対応することは難しい。粘土学会は収入規模も小さいので暫く動向を見守ることとした。
- (5) その他：特になし

平成21年度第4回日本粘土学会常務委員会議事録

日 時：平成21年9月9日(水) 15:00～17:00

会 場：岩手大学 学生センター棟4階 G41講義室

出席者（順不同、敬称略）：

岡田（清）、井上、山田、成田、八田、高木、

岡田 (友), 山崎, 篠原, 土信田, 亀島 (記)

1. 報告事項

会長より北川隆司 前粘土科学編集委員長のご逝去に際して、学会より献花を行ったことの報告があった。

また、総会で黙祷を行うとの説明があった。

- (1) 編集 (粘土科学) : 篠原 新編集委員長よりの挨拶の後、第48巻の発行報告、原稿の協力要請があった。
- (2) 編集 (Clay Science : 成田) : Vol.14 No.1, No.2の発行報告、Vol.14 No.3 (審査中論文2本) の報告、原稿の協力要請があった (別紙)。
- (3) 会計 : 特になし
- (4) 行事 (代理 : 成田) : 第53回粘土科学討論会の準備状況、発表件数などの報告 (別紙)。
- (5) 国際協力 (代理 : 山田) : 日本-米-スペイン3国国際会議への協力要請の報告。
- (6) 企画 (標準粘土・研究グループ・ホームページ) : (高木) : 研究グループの終了報告があり、研究グループのあり方について意見交換した。
(岡田 (友)) : 将来問題 WG 答申のホームページへの掲載について報告があった。
- (7) 庶務 (会員の動向・研連等) : (山崎) : 会員動向 (別紙) についての報告、地球惑星連合への対応について意見交換した。
- (8) 事務局 (土信田) : 特になし

2. 審議事項

- (1) 平成21年度決算および会計監査 (代理 : 土信田) : 平成21年度の収支決算および監査報告の説明があり、評議員会に諮ることとした。
- (2) 平成22年度予算案 (代理 : 土信田) : 平成22年度の予算 (配付資料) 内容に関して説明された。討論会費については、次年度から60万円+シンポジウム経費に変更する案を評議員会に諮ることとした。
- (3) 名誉会員の推挙 (井上副会長) : 西山勉会員の名誉会員への推薦について説明 (配付資料) があり、評議員会に諮ることとした。
- (4) 総会の議事次第 (山田) : 平成21年度日本粘土学会総会議事次第 (配付資料) について説明があり、各担当の確認を行った。
- (5) 将来問題検討 WG 答申書 (代理 : 八田) : 答申書 (配付資料) について説明があり、その対応 (財源など) を協議した。その結果、会長より総会で答申に対する具体的な動き (次年度の Asian Clay, 両論文誌の対応など) を説明する案を評議員会に諮ることになった。
- (6) 粘土科学発行案 (篠原) : 2010年度以降の発行号数に対する編集委員会案 (配付資料) として、年3号発行の提案があった。協議した結果、この案を評議員会に提案することとした。
- (7) 粘土科学 (北川先生追悼号) の発行 (篠原) : 追悼

号を含む49巻の発行計画に対する説明 (配付資料) があり、追悼号のあり方等について意見交換し、評議員会で意見を聞くこととした。

- (8) 日本-米-スペイン3国国際会議 (代理 : 山田) : 3国国際会議への若手研究者・学生の参加を促すため、学術振興基金の特例的な助成案 (配付資料) の説明があった。詳細は評議員会で議論することになった。
- (9) JST 電子アーカイブ化 (山田) : 電子化推進要望書の受理、電子化による再構築について、著作権の帰属、公開論文範囲、および公開制限に関して説明があった。評議員会で公開範囲について審議し、総会で著作権の作業等のアナウンスを行うこととした。

平成21年度第4回日本粘土学会評議委員会議事録

日 時 : 平成21年9月10日(木) 12:00~13:00

会 場 : 岩手大学 学生センター棟4階 G41講義室

出席者 (順不同, 敬称略) :

岡田 (清), 井上, 山田, 篠原, 成田, 河野, 會澤, 高木, 鈴木 (正), 宮脇, 岡田 (友), 八田, 井伊, 上原 (元), 小暮, 佐藤 (久), 地下, 鈴木 (憲), 西浜, 日比野, 福嶋, 松枝, 久保, 柳本, 土信田, 亀島 (記)

会長より北川隆司 前粘土科学編集委員長のご逝去に際して、学会より献花を行ったことの報告があった。また、総会で黙祷を行うとの説明があった。篠原粘土科学編集委員長が紹介された。

1. 審議事項

- (1) 平成21年度決算 (河野) : 平成21年度収支決算 (配付資料) の報告があり、了承された。
- (2) 平成21年度会計監査 (久保) : 平成21年度会計監査 (配付資料) に関する報告があり、了承された。
- (3) 平成22年度予算案 (河野) : 平成22年度予算案の提案説明があり、了承された。
- (4) 名誉会員の推挙 (井上) : 西山勉会員の名誉会員推薦 (配付資料) について説明があり、了承された。
- (5) 総会の議事次第 (山田) : 平成21年度日本粘土学会総会議事次第 (配付資料) について説明があり、了承された。
- (6) 将来問題検討WG答申 (代理 : 八田) : 答申書 (配付資料) について説明があり、その対応 (財源など) について審議した。その結果、Clay Science 誌のインパクトファクター獲得、国際会議開催等の答申内容を尊重し、総会で会長より本答申内容に沿って活動を進めるとの方針提案を行うことになった。
- (7) 粘土科学に関する変更案 (篠原) : 編集委員会の体制に関する変更案と年間の発行数を3号とする案について説明があり、了承された。